

“

私は何年もの間
ロレックスの技術と信頼をもって
確固たる品質と先駆性を備えた腕時計を
創りたいと思ってきた。

その価値ある新しい腕時計を
製造・販売するために、私は新たに
『チューダー ウォッチ カンパニー』
という会社を立ち上げることにした。

”



TUDOR HISTORY

TUDOR PRESS KIT - 2014

1926

BIRTH OF THE BRAND

1926年2月、腕時計ディーラーでメーカーでもある「ヴーヴ ドゥ フィリップ ヒュンター」がハンス・ウイリスドルフの代理で「The Tudor (チューダー)」を商標登録した。

その後、ジュネーブで会社を設立、ハンス・ウイリスドルフは「ヴーヴ ドゥ フィリップ ヒュンター」からブランドの独占的使用権を取得した。

1932

FIRST TUDOR WATCHES IN AUSTRALIA

初期のチューダー ウォッチには「TUDOR」の「T」の横棒が右に伸びたシンプルなロゴがダイアルに刻まれていたが、一部の希少なモデルにはロレックスの名も見られる。これはブランドがこの業界で自立するまで、ロレックスがチューダー ウォッチの技術と美的品質を事実上保証していたことを示している。チューダーの名が刻まれた腕時計には、男性用と女性用の両方のモデルがあり、長方形やバレル型、サイドに面取りが施された形状のものがあった。1932年、オーストラリア市場向けのチューダーウォッチは、オーストラリア国内トップの宝飾店であった Willis Companyへ販売委託された。




TUDOR



TUDOR “CATANACH’S”

ここで紹介しているサイドに面取りを施した長方形の腕時計は、クロムメッキ加工の金属を使用している。これは初期に発表されたチューダーのデザインを表現したものだ。2色の組み合わせ、ルミネッセンスのアラビア数字を配したクリーム色の2セクターダイアル、ルミネッセンスのブルースチール（青焼き）のバトン針、ミニッツトラック、そして6時位置に配したスモールセコンドなどを特徴とする。平行型のキャリバーを採用し、トッププレートに見られる3石の赤いルビーで見分けることができる。1874年にメルボルンで設立されたCatnach's Jewellersは、オーストラリアで最も歴史のある宝飾店のひとつだ。

1936



HANS WILSDORF TAKES BACK THE BRAND “THE TUDOR”

1936年10月15日、「ヴーヴ・ドゥ・フィリップ・ヒュンター」は、ブランド「チューダー」をハンス・ウィルドルフへ譲渡した。この時、チューダー朝のローズがダイアルに施されるようになった。盾の中に刻まれたこのロゴは、頑強さ - 腕時計の強靭性 - とともに、気品 - ラインの美しさ - を象徴している。

1946

CREATION OF THE “MONTRES TUDOR S.A.” COMPANY

第二次世界大戦直後、ハンス・ウィルドルフは今こそブランド独自のアイデンティティを確立し、事業を拡大すべきであると判断した。そして1946年3月6日、

彼は男性用と女性用の両モデルに特化した「Montres TUDOR S.A. (モントレ チューダー S.A.)」を設立した。ロレックスは流通やアフターサービスと共に、その技術やデザイン、機能性を保証していた。

1947



EVOLUTION OF THE LOGO

チューダーが正式に設立された翌年の1947年以降、盾のマークは徐々に消えていった。その後、社名とローズのみで構成されたロゴは、繊細な描写や浮き彫りにより、ブランドの気品とスタイルを引き立たせた。

1952

BIRTH OF THE TUDOR OYSTER PRINCE

1952年、チューダー オイスター プリンスが発表され、当時としては非常に斬新で印象的な広告キャンペーンが展開された。従来のキャンペーンとは異なり、製品の紹介方法に制限を設けなかった。詳細な文章で強調するのではなく、チューダーを着用した男性が厳しい環境で作業する様子を描いたイラストによって、強靭性、信頼性、精度のクオリティを強調。スポーツシーンを描いた一般的な広告とはかけ離れたものだった。この強烈なイメージは、製品が持つ信頼性とあいまって、現代性と信頼性の概念を反映するスタイルと個性をチューダー ウォッチにもたらした。

Introducing . . .
The Tudor Oyster Prince

"In its field an outstanding achievement," says Mr. H. WILSDORF, Governing Director of the Rolex Watch Company of Geneva.

The story behind the Tudor Oyster Prince
FOR SOME YEARS Mr. H. Wilsdorf, Governing Director of the Rolex Watch Company, had been conducting market research that would compare with Rolex in dependability and accuracy, yet sell at a more modest price.
He found the Tudor Watch Company to make the one watch

desires to share with Rolex the advantages I would allow no other watch to offer in the form and unique waterproof Oyster case and the original self-winding Perpetual "rose" mechanism.

Big Decision
He wrote on this: "As a result of my extensive search, I have decided that the Tudor Oyster Prince will have the most exceptional features previously exclusive to Rolex. This indicates, I think, the success of my faith in this new watch."

TRIAL OF DESTRUCTION
Now, the only problem was one which had already been solved by the Oyster Prince. It was the fact that the watch had to be made to stand up to the most severe tests. The watch had to be made to stand up to the most severe tests. The watch had to be made to stand up to the most severe tests.

THE TUDOR OYSTER PRINCE
The Tudor Oyster Prince is a watch of exceptional quality and accuracy. It is a watch that will stand up to the most severe tests. It is a watch that will stand up to the most severe tests.

THE TUDOR WATCH COMPANY LIMITED - GENEVA - SWITZERLAND
1952 B.C. Rolex, Paris, France, 1925-1952

ハンス・ウイリスドルフはこの新しいキャンペーンでロレックスとチューダーを結び付け、威信をかけたこの新製品を認めた：「他のいかなる腕時計にも使うことを許さなかったロレックスの2つの強み、すなわち独自の有名な防水性オイスターケースと独創的な自動巻パーペチュアル「ローター」機構を、チューダー プリンスにも採用することにした。すべてのチューダー オイスター プリンスは、これまでロレックスだけに限定されてきた、この2つの並外れた機能を備えることになる。これは、新しい腕時計に対する我々の信頼度を示すもので、私はこの製品を推奨できることを誇りに思う。

これらの技術的資産により、この新しい腕時計は市場での地位を確立し、瞬く間に成功した。同年、26本のチューダー オイスター プリンスが英国海軍によるグリーンランドへの科学探検に採用された。このようにして、チューダーは、その強靭性、信頼性、精度を証明した。



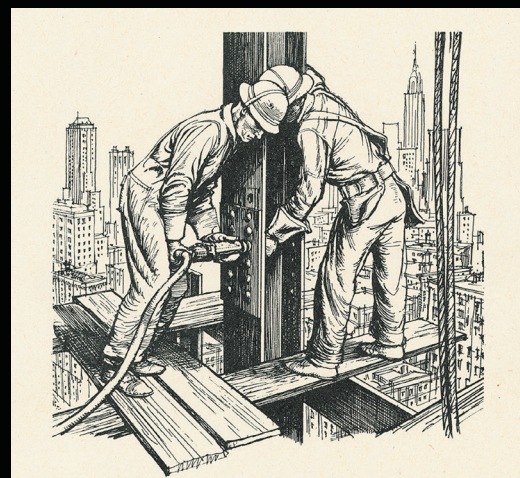
TUDOR OYSTER PRINCE 7909

1952年に発売されたオイスター プリンスは、最小31mmから大きめの34mmまでのケースサイズの防水腕時計である。また、自動巻キャリバー390を搭載するために厚みがあり、銅色の真鍮製である。ローターには「TUDOR Swiss Patented AUTO-PRINCE」の文字が刻印されている。このRef.7909のクリームダイヤルには、ゴールドのアラビア数字のアプリケとその脇にルミネッセンスの小さなドット、

ルミネッセンスのドーフィン針とブラックスチール製の長い秒針が配されている。ケースバックには「Montres TUDOR S.A. Geneva Switzerland Patented」の文字が刻まれている。

チューダー オイスター プリンスは、自動巻ムーブメント、キャリバー 390を搭載している。

FEF (Fabrique d'Ébauches de Fleurier)をベースにした12.5ラインのムーブメントの振動数は毎時18,000振動。コレクターたちが「バタフライ」というニックネームで呼ぶ、穴のあいたVローターと「AUTO-PRINCE」の刻印が特徴である。



Jarred beyond belief

How many self-winding watches would stand up to excessive vibration? Few, indeed! For one such watch to pass unscathed through a month's shock-treatment on the wrist of a riveter operating a pneumatic hammer is an unparalleled event in horology.

Such a test has just been passed with honours by a Tudor Oyster Prince—the new self-winding watch, sponsored by Rolex of Geneva.

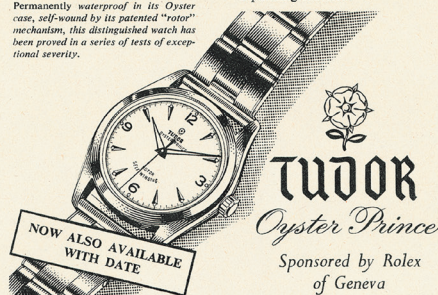
The riveter himself, who never once removed it from his wrist or reset the hands during the whole trial (wearing it as he punched home rivets into steel girders, washing, bathing, sleeping with it on) could not believe that any

watch could take such a beating and go on ticking. The Oyster Prince did more—it kept perfect time.

Rolex knew that it would. For the Tudor Oyster Prince is automatically wound, for its own greater accuracy, by a Rolex-patented "rotor" mechanism with flexible suspension to keep it impervious to even the most shattering vibrations. The Tudor Oyster Prince is also protected from even the finest metallic dust by the famous waterproof Oyster case.

You yourself can own one of these remarkable Tudor Oyster Princes, for this supremely accurate self-winding watch is by no means expensive. Ask your Rolex jeweller to show it to you, in stainless steel, with its matching expanding bracelet.

Amazing accuracy under seemingly impossible conditions—that is the characteristic of the Tudor Oyster Prince. Permanently waterproof in its Oyster case, self-wound by its patented "rotor" mechanism, this distinguished watch has been proved in a series of tests of exceptional severity.



2520-5 K&C Rolex (Tudor) Punch 26 May, 1954 101x31 Final Proof A9763



TUDOR



取められている。2011年、この伝説的なアラームウォッチが全面的に刷新され、直径が8mm大きくなり(34mmから42mmへ)Ref.79620Tとして再び発売された。



1953

PROOF OF ROBUSTNESS

1953年、ロレックスはチューダー オイスター プリンスの堅牢性のテストと、過酷な環境における耐久性をテーマにしたキャンペーンを展開した：

- 252時間、手作業で採掘を行う炭鉱作業員が着用
 - 30時間、空気ドリルの振動下で使用
 - 3ヶ月間、石切り職人が着用
 - 1ヶ月間、金属の梁の固定作業を行う建設現場で着用
 - 1,000マイルを走破したバイクレースが着用
- 極限ともいえる過酷な条件における、この腕時計の並外れた強さ、精度、効率的な巻上げ、防水性能を強調した。

1957

TUDOR ADVISOR: THE FIRST ALARM WATCH

チューダー アドバイザー アラーム ウォッチは、チューダーの歴史において唯一アラーム機能を搭載する非常に珍しいモデルだ。1957年から1977年にかけて、3種類のチューダー アドバイザーが製造された。Ref.7926および1537の2つのモデルはオイスタータイプのケース、Ref.10050は新しい専用ケースに

TUDOR ADVISOR 7926

このユニークで非常に希少なRef.7926は、ジュビリーブレスレットを備えたモデルで、1957年から1968年にかけて製造されていた。生産数はほんの数千本のみ。アラーム機能の振動を最適化するため、チューダー アドバイザー Ref.7926のオイスタータイプのケースは改良された。アラーム機能の操作と時計機能の操作はそれぞれ2時位置と4時位置の2つのリュースによって行う。ムーブメントは、名高い手巻のA.S.1475 (A. Schild) である。

1969

NEW EVOLUTION OF THE LOGO

1969年以降、クラシカルな美しさが確固たるものになる一方、チューダーはより堅牢で技術的な時計製造に取り組んでいった。その中で、ロゴからローズは姿を消し、堅牢性と揺るぎない信頼性の象徴である盾が選ばれた。



DIVING INTO THE LEGEND

1954年、チューダーは新たな道を歩み出す。

伝説の始まりだった。この年、ブランド初となるダイバーズウォッチ、チューダー オイスター プリンズ サブマリナー Ref.7922が誕生したのだ。構想の段階から、耐久性、信頼性、精度、防水性能の高い基準を満たすよう独自に開発されたこのモデルは、瞬く間にプロフェッショナルたちには選ばれるツールとしての地位を確立した。以後45年にわたり、この独自の実用時計はあらゆるタイプのダイバーたちの要望に応えられるように進化し続けた。

チューダー サブマリナーの初代には様々なバージョンがあり、それらを通して性能面での顕著な進化が見られた。例えば、最初は100mであった防水性能が1958年のRef.7924では200mに向上した。

この時代、理想的なダイバーズウォッチとして不可欠な機能を探るべく数々の試みが行われた。7900シリーズの各リファレンスに見られる違いはわずかであり、それらの機能はその後の製品開発で残ったものもあれば、無くなったものもあったが、それぞれが伝説に貢献したことは間違いない。そして1960年代前半、ラウンド型リュースガードが特徴的なRef.7928の最終バージョンによって、ついにチューダー サブマリナーらしいシルエットと技術的特徴が確立された。

1969年は、チューダー サブマリナーの歴史の第2部の幕開けの年となった。この時代は最後にカタログに登場した1999年まで続く。製品としての基盤は7900シリーズによって築かれていたが、進化は続いた。技術面では、それまで使用されていたムーブメントからETA自動巻ムーブメントへ変更。デザイン面では、チューダー サブマリナーの有名なニューフェイスが1969年に誕生した。

ダイビングのニーズに合わせて開発されたこのモデルは、スクエアのアーマーケースと、コレクターたちから「スノーブレーク」と呼ばれる針を配したユニークなダイヤルが特徴である。このモデルは1981年までカタログに掲載された。1976年には、より小さなケースのモデルもカタログに登場した。

民間のマーケティング、セールスと並行し、チューダー サブマリナーは軍隊に重宝された。フランス海軍(MN)や米国海軍(USN)をはじめとする軍組織に採用され、その堅牢性と信頼性が高く評価された。



FIRST SERIES: THE TUDOR SUBMARINERS FROM 1954 TO 1968

初のチューダー ダイバーズウォッチであるRef.7922は1954年に誕生した。チューダーのカatalogに、Ref.7928がチューダー サブマリーナーとして初めて登場するのは、それから数年後となる。その間チューダーは、理想的なダイバーのためのツールとして完成させるべく、多くの技術的ソリューションに対する試みを行った。しかし、カatalogに掲載されなかったからといって、この初代モデルが売れなかったわけではない。このモデルは、発売されて間もなく熱烈なファンを獲得し、特に主要国の海軍組織では人気を博した。

Ref.7922、7923、7924、および7925は、リューズガードのないケース径37mmサイズという共通の特徴を持ちながらも、それぞれに独自性がある。Ref.7922は水深100mまでの防水性能、Ref.7923は手巻ムーブメント、Ref.7924は水深200mまでの防水性能を誇り、Ref.7925は7924が持つ全ての特徴と、水深100mまでの防水性能が備わっている。

7900シリーズの最後のリファレンスであるRef.7928には、リューズを保護するためのリューズガードが備わり、水深200mまでの防水性能、自動巻ムーブメントが搭載されている。これらの特徴は、1990年代の終わりまで市場に流通したサブマリーナーに共通しており、Ref.7928はダイバーズウォッチにおける長年の実験を通して得られた経験の集大成となっている。

TUDOR OYSTER SUBMARINER 7923

Ref.7923は手巻ムーブメントを搭載した唯一のチューダー サブマリーナーだ。この技術的選択により、非常にフラットなダイバーズウォッチが誕生した。オイスターケース独特の特徴であるスクリュー式のケースバックとリューズ、そしてドーム型のクリスタルにより、チューダー オイスター サブマリーナーの防水性能は水深100mまで確保された。

ムーブメントが自動巻ではなかったため、ブラックラッカー仕上げのダイアルの6時位置には「ROTOR」と「SELF-WINDING」の文字がない。その代わりに「SUBMARINER」と「SHOCK-RESISTING」の文字が記された。初代のサブマリーナーと異なり、ダイアルに防水性に関する表記はなく、針はバトン型である。



Ref.7923は振動数が毎時18,000振動の手巻ETAキャリバー 1182を搭載している。リベットリンク付きのオイスタータイプのプレスレット (Ref.6636) にはロレックスのロゴ。写真のモデルでは、一般的なカーブの付いたエンドリンクではなく、2本の円筒形のバーによってプレスレットとケースをつないでいる。

SECOND SERIES: THE TUDOR SUBMARINERS FROM 1969 TO 1999

1960年代後半から、チューダーは、サブマリーナーの販売を開始した。これは、Ref.7928の最終バリエーションで確立された特徴を持つ理想のダイバーズウォッチをベースにしたものだった。実際に1969年、7016および7021の2つの新しいモデルがカタログに同時掲載された。これらは、新しい自動巻ムーブメントを搭載し、コレクターたちには「スノーフレック」として知られる、特徴的なスクエアのアワーマーカーと針の付いた新しいダイヤルを備えていた。Ref.7021は、チューダーサブマリーナーでカレンダー表示機能を備えた初めてのバージョンでもあった。そしてついに、ダイヤルとベゼルがブルーの組み合わせのモデルが登場した。

これらのバージョンは1970年代半ばに、チューダーのダイバーズウォッチの小型サイズとなる、チューダーサブマリーナー プリンセス デイトがカタログに掲載されたことで継続。翌年以降は、さらに小型のバージョンが多数登場した：チューダー サブマリーナー プリンス オイスターデイト、プリンス オイスターデイト ミニ-サブ、そしてプリンセス オイスターデイト レディ-サブである。

チューダー サブマリーナー コレクションが販売されていた終盤の時期は、非常に耐久性の高いサファイアクリスタル、刻みの入った回転ベゼル、ダイヤルとベゼルのデザインの各種バリエーションなどが導入され、重要なイノベーションがいくつも生み出された時代でもあった。

1969～1999年を総合的に見ると、非常に多数のバリエーションを持つ20以上ものリファレンスが積極的に製造された時期であり、それらのすべてがチューダーサブマリーナーの主要な特徴を保持していた。

TUDOR OYSTER PRINCE SUBMARINER 7016

1969年のカタログでは、チューダー サブマリーナーの2つの新作、Ref.7016と7021が登場した。チューダーダイバーズウォッチの第2世代はこれらのモデルから始まったのだ。写真の1969年製Ref.7016には、ダイヤルと針に独特の特徴が見られる。非常に読み取りやすい大きなスクエアのアワーマーカーがアクセントとなり、ローズのロゴに代わって耐久性と信頼性を象徴する盾のロゴが採用された。コレクターたちに「スノーフレック」と呼ばれる針は、視認性を最大限に高めるため夜光塗料が施されている。一目で分かるこのニューフェイスは、チューダーのアイデンティティの確立に貢献した。



Ref.7016におけるその他の大きな変化は、それまでの自動巻キャリバー 390から振動数が同じ毎時18,000振動であるETA 2483 ムーブメントへの変更だ。先代が確立した特徴はそのまま継承された - ロレックスの表記が見られる39mmのケース、水深200mまでの防水性能、ラウンド型リュースガード、ロレックスのクラウンマークが入ったスクリュー式リュース、5分単位で60分まで刻まれた目盛りとさらに0分から15分まで1分単位の目盛りが刻まれた両方向回転ベゼル、ロレックスの表記のあるフォールディングリンクのオイスタータイプのプレスレット。プレキシガラス製のクリスタルはドーム型でなくフラットで厚くなり、張り出している。

MILITARY DIVERS' WATCHES

プロフェッショナルのためのツールの品質を証明するには、それを限界まで酷使するような活動を日常的に行っている組織に正式採用されることだろう。

長い歴史を通して、フランス海軍(MN)や米国海軍(USN)、そして世界の主要な軍組織から高い評価を得てきたチューダー サブマリーナーは、そのエリートメンバーの装備品として採用され、品質と堅牢性が高く評価されてきた。

これらの軍組織に納入されたチューダー ダイバーズウォッチは特注デザインでもなく、特別に開発されたモデルでもない。カタログに掲載されているものが選ばれたのである。モデルを唯一見分ける方法は、スクリュー式ケースバックの刻印だ。例えばフランス海軍で使用されたチューダー サブマリーナーには、イニシャルM.N.の文字と納品された年の最後の2桁が刻まれている。

これらのモデルは非常に過酷なコンディションの中で何年も使用されたため、現在でも完璧な状態で残っているものは非常に稀だ。しかしその相対的な希少性、それぞれのストーリー、背景により、これらのモデルは高く評価すべきコレクションとみなされている。掲載のモデルは、軍務に服したチューダー サブマリーナーの一部である。

TUDOR OYSTER PRINCE SUBMARINER "MARINE NATIONALE" 9401

フランス海軍のダイバーたちは、写真の1977年製のRef.9401のようにストラップの素材にパラシュートのベルトを使用していたことで知られている。この素材の伸縮性によって快適な着用感が得られ、ダイビングスーツの上からでも簡単に調整することができたのだ。このモデルのケースバックにはM.N.77の刻印がある。

写真のストラップは、チューダー製ではない。



A UNIQUE STYLE

半世紀近くにわたり、チューダーは確固としたアイデンティティと独自のスタイル、一切の妥協を許さない品質を備え、クロノグラフの歴史にその名を刻んできた。あふれる情熱と進化し続けるプロダクト、そして独自のアイデンティティと時代に精通するモデルを具現化してきたチューダーは、4世代のシリーズを生み出し、スポーツクロノグラフの分野において比類なき地位を確立した。

初の機械式手巻腕時計が発表された1970年、オイスターデイト クロノグラフは、その独創性あふれる鮮やかな色使いと特徴的な五角形のアワーマーカーで瞬く間にチューダーファンを魅了した。

翌年1971年、オイスターデイト クロノグラフのセカンドシリーズが技術の向上と進化したスタイルで登場した。今日、コレクターたちの間では「モンテカルロ」のニックネームで知られている。このシリーズで採用された独創性あふれるブルーのダイヤルとベゼルは、強い印象を残した。

1976年、チューダー クロノグラフの第3世代となるシリーズが登場。時計コレクターたち間で「ビッグ・ブロック」として知られるこのモデルは、重要な革新の先駆けとなった。機械式自動巻ムーブメントを搭載したブランド初のクロノグラフとして発表されたプリンス オイスターデイトは、オイスターデイト コレクションの新たな始まりを告げた。チューダーは、卓越した技術品質を駆使して一目でそれとわかるクロノグラフを生み出したのだ。

そして、プリンス オイスターデイト 自動巻クロノグラフのセカンドシリーズが発表されたのは1995年。洗練されたケースや傷防止のサファイアクリスタルの導入は、デザインと技術的向上を体現したものとなった。

12の主要なリファレンスを含む、4世代のチューダー クロノグラフ シリーズは、何年にもわたり熱狂的な人気を博した。この関心の高まりに応え、チューダーの歴史において重要な腕時計を厳選し、その進化を紹介する。



1970

FIRST SERIES: TUDOR OYSTERDATE

チューダー初のクロノグラフは「オイスターデイト」と名付けられた。1970年に発表され、機械式手巻のValjoux キャリバー 7734とカム式クロノグラフを搭載。当時多く見られたものに比べてかなり大きな直径39mmのケースを採用し、ラグは特徴的な面取り仕上げ、研ぎ澄まされた力強いラインを生み出した。グラフィックなスタイルが際立つダイヤルもまた独特な魅力を放つ。大胆な賭けとも思われたこのモデルは、発表とともに多くの支持を得て成功を取めた。

初代のスポーティなチューダー クロノグラフは、ベゼルが異なる3つのバリエーションで展開。そのうち2つは量産されたが、残る1つは商品化されることはなかった。どれも独創的で気品漂う外観を纏い、技術とスポーティな要素に裏打ちされている。Ref.7031/0は、500ユニットのタキメーター目盛り入りプレキシガラス製インサートのベゼルが特徴。これが2地点間の平均時速の計算を可能にする。Ref.7032/0にはサテン仕上げのスチール製ベゼルを採用し、同様に500ユニットのタキメーター目盛りが刻まれている。残るRef.7033/0は、ブラックの12ユニットの目盛り入りアルマイト加工のインサートを採用した両方向回転ベゼルが特徴。このモデルはプロトタイプまでの製造にとどまった。

これら3つの初代リファレンスのダイヤルには、グレー地にブラックのカウンターとホワイトのミニッツトラックといった3色のカラーを採用している。また、独特な五角形のルミネッセンスのアーチャーマーカーは、野球のホームベースを想起させるフォルムであることから、コレクターたちに「ホームベース」というニックネームで呼ばれる。さらに、より一般的な30分積算計とは異なる45分積算計のクロノグラフ ミニッツカウンターも特徴的である。オイスタータイプの防水性ケースとスクリュー式リュースにより、これらのクロノグラフは50mまでの防水性能を実現した。また、クロノグラフの誤操作を防止するスクリュー式プッシャーも装備している。

TUDOR OYSTERDATE 7033/0

オイスターデイト クロノグラフ 7000シリーズの最終バージョンである、Ref.7033/0。他の2つのモデルとは異なり、一度も商品化されていない。共通する特徴が多くあるが、このモデルではブラックの12ユニットの目盛り入りアルマイト加工のインサートを備えた両方向回転ベゼルを採用している。これは1971年に発表されたRef.7169/0の先行モデルといえる。



1971

SECOND SERIES: TUDOR OYSTERDATE “MONTECARLO”

第2世代のチューダー クロノグラフは1971年に登場し、1977年までカタログに掲載されていた。

カジノのルーレット盤を想起させるダイアルから、ファンにチューダー「モンテカルロ」と呼ばれる7100シリーズのクロノグラフ。塗装を施したアワーマーカーが特徴的なダイアルに宿る精神、ケースは前シリーズのデザインを受け継いでいる。一方でムーブメントはValjouxキャリバー 7734に代わり、このシリーズのチューダー クロノグラフには手巻のValjoux 234を搭載している。この新しいムーブメントは、前シリーズの毎時18,000振動を上回る、毎時21,600振動を誇り、クラッチとコラムホイールを備え、より洗練されたクロノグラフ機構を搭載、正確性が向上している。また、ブルーとグレーのダイアルや2種類のブルーのベゼルで新たなカラーコンビネーションで展開された。

この新シリーズは3種類のクロノグラフで構成されている。Ref.7031/0に代わり、500ユニットのタキメーター目盛り入りプレキシガラス製ベゼルを特徴とするRef.7149/0がカタログに登場。また、タキメーター目盛りが刻まれたサテン仕上げのスチール製ベゼルが特徴のRef.7159/0がRef.7032/0に代わって掲載された。一方でRef.7169/0は、回転ベゼル付きのプロトタイプ7033/0を具現化したモデルとして注目を集め、量産された。

7100シリーズ初期は、初代チューダー クロノグラフと同じスチール製ブレスレットを受け継いでいた。後に、オイスタータイプでソリッドリンク付きのブレスレット、Ref.78360へと進化を遂げる。



TUDOR OYSTERDATE “MONTECARLO” 7169/0

7000シリーズのプロトタイプをもとに量産されたチューダー オイスターデイト クロノグラフのRef.7169/0は、第2タイムゾーンの時刻を表す12時間の目盛り入り回転ベゼルが特徴。ダイアルは、ここで紹介しているブルーとグレーのほか、ブラックとグレーの配色で展開された。7100シリーズの他のリファレンス同様、7169/0は1971年からカタログに掲載されていた。

1976

THIRD SERIES: TUDOR PRINCE OYSTERDATE “BIG BLOCK”

1976年、チューダーは新しいシリーズを発表し、ブランドに小さな革命を起こした。この新しいプリンス オイスターデイトは、チューダーの歴史上初めて自動巻ムーブメントを搭載したクロノグラフであった。

プリンス オイスターデイトと名付けられたこの腕時計は、その特徴的なダイヤルから「オートマチック クロノタイム」または「クロノタイム」という名でも知られている。ケースは、前シリーズの全体のラインを保ちつつ、自動巻ムーブメントのローターが収まる厚みのあるデザインを採用、コレクターたちから「ビッグ・ブロック」と呼ばれる。「ビッグ・ブロック」の名は後の1989年に発表された79100シリーズに受け継がれ、変更点は最小限にとどめている。

先代同様、9400シリーズはベゼルのデザインが異なる3種類のリファレンスで構成されており、これも79100シリーズの「ビッグ・ブロック」に見られる特徴だ。また、同リファレンス番号で数種類のダイヤルバリエーションを展開している。2つの美学から生まれたダイヤル。ひとつは過去2シリーズで搭載されたダイヤルのスピリットから自由に着想を得たデザイン。コレクターたちの間では「エキゾチック」と呼ばれることもある。もう一つは、カタログに頻繁に登場していた、ブラックとホワイトまたはシルバーとホワイトの組み合わせで、コントラストを効かせた大胆なダイヤルカウンターを強調させたデザインだ。

新しいクロノグラフの心臓部であるムーブメントは、Valjouxキャリバー 7750。手巻のValjoux 234と同じ直径30.4mm（13ライン）で、前モデルよりも1.5mmプラスされた厚みと毎時28,800振動が特徴である。このクロノグラフ機構は、高い信頼性を誇るカム・スイングピニオンシステム。この新しいムーブメントの導入により、アワーカウンターの追加、ダイヤル左側へのカウンター位置変更、3時位置への日付表示窓の配置変更といったダイヤルの再編成がなされた。

TUDOR PRINCE OYSTERDATE “BIG BLOCK” 9430/0

プリンス オイスターデイト クロノグラフ シリーズではダイヤルにモデル名称が記されていないが、ここで紹介している1976年製モデルには「CHRONO TIME」とあり、その他には「AUTOMATIC CHRONO TIME」とダイヤルに記されているものがある。Ref.9430/0バージョンは、印象的なホワイトのカウンターを3つ配したブラックのダイヤルが特徴だ。自動巻のValjouxクロノグラフ キャリバー 7750により日付を瞬時に変更できる機能が備わり、オイスターデイト クロノグラフにさらなる革新をもたらした。前シリーズでは、しばらく着用しなかった期間後に手動で何度も針を回転させて日付を設定しなければならなかったが、このシリーズでは日付ディスクを直接動かせる位置にリュースが配置されている。



1995

FOURTH SERIES: TUDOR PRINCE OYSTERDATE

1995年、79200シリーズの登場によりプリンス オイスターデイト 自動巻クロノグラフのデザインが再解釈された。それはわずかな違いながら非常に重要なものだ。クロノグラフの3世代にわたって受け継がれてきたケースは、広く知られる研ぎ澄まされた存在感をそのままに、より洗練された柔らかなラインを持つものとなった。一目でそれとわかる印象的なシルエットを保ちながら、新たに丸みを帯びた柔らかな曲線を持つ。

3つの特徴的な変化がこの第4世代のデザインを一層際立たせている。クリームカラーのカウンターを配したシルバーの独創的で新しいダイアルの登場、従来のプレキシガラス製タキメーター目盛り入りベゼルインサートに代わるブラックアルマイト加工インサートの導入、そしてサイクロップレンズを備えたサファイアクリスタルがプレキシガラス製クリスタルの代わりに採用された。

ムーブメントは、大幅に改良された自動巻のValjoux キャリバー 7750を搭載。この腕時計が唯一無二なのは、あくなき美への探究心に支えられているからだ。この世代で一新された装飾は「スペシャル チューダー」と呼ばれる。ローターの転写マークはなくなり、刻印と金メッキが施されている。ネジはマットではなくポリッシュ仕上げとなった。

1996年、Montres TUDOR S.A. (モントレ チューダー S.A.) が創立50周年記念を迎えた。ブランドは円熟期に達し、もはや世界中の市場で知られるようになった。そして、チューダー ウォッチのケースやリュース、プレスレットに刻まれていたロレックスの表記は、徐々に姿を消していく。



TUDOR PRINCE OYSTERDATE 79260

Ref.79260はプレキシガラス製インサートに代わり、アルマイト加工インサートを装備したタキメーター目盛り入りベゼルを採用したモデルだ。ここで紹介している1996年製の例は、シルバー地にクリームカラーのカウンターを配した新しいクロノグラフ ダイアルを特徴としている。